

『学校力向上に関する総合実践事業』 コーナー その2

今号は「日常の学習指導に生かせる実践的な校内研究」について紹介します。

今年度の研究主題は『互いの考えを認め合い、高め合う授業づくり～「協同的な学び」が見える授業の実現を目指して～』です。子どもたちが友達と協力しながら様々な問題や課題に取り組む主体的な態度を身につけさせるため、ペアやグループでの話し合いを大切にしています。

5月20日(水)に研究部長の鈴木先生が提案授業として、6年生の国語科の授業を公開しました。「教えて考えさせる」国語の授業で、単元は、「グループで話し合おう」です。

つまり、どうやったら上手に話し合うことができるかを考えてやってみる授業です。この単元で身につけさせたい力は、「互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う力」です。難しい目標ですが、

子どもたちは「話し合いマスター」を目指して、グループごとに課題を設定しました。

「どうしてそう思ったの?」と聞き返すなど「相手の意図を考える」ことが、前時までの学習でわかってきた共通した課題でした。

話し合いのテーマは「1年生との交流遊び」。入学当初に朝の時間を使って一緒に遊んだときの経験を生かして、グループでの話し合いを進めます。子どもたちは、1年生の反応や声を思い出しながら、「助けオニを喜んでいたら…」とか「リレーだと運動会の練習になるから…」などの理由を付けて話し合います。

友達の意見に関連付けながら、自分の意見を言えたかどうか。相手の意図を考えて話すことができたかどうか。「話し合い」の進め方を意識して話し合うことは、難しい課題でしたが、相手の意見を受けて自分の考えを言おうという姿も多く見られました。

話し合いの仕方を学ぶことは、今年度の研究主題にある「協同的な学び」を支える大切なスキルです。

価値観の多様な社会だからこそ、立場や考え方の違う人たちと話し合い、折り合いを付けたり、互いに納得できる解決案にたどり着いたりする能力が、今後ますます必要になるでしょう。

私たちは子どもたちが社会で活躍する姿を想像しながら、日々の授業を改善する研究でありたいと考えています。

